

「肺癌の病理組織検体を用いた次世代シーケンサーによる遺伝子解析の有効性」に 対するご協力をお願い

抗がん剤の効き目には個人差があり、同じ治療を受けても、よく効く患者さんとあまり効果のない患者さんがいます。このような治療効果の差は、がん組織中の遺伝子やたんぱく質などの変化が関係していると考えられており、それぞれの患者さんの特徴にあわせた治療薬、治療法を選択することを「最適化治療」といいます。「最適化治療」を行うには、薬の治療効果を予測するマーカーが必要です。この研究を通して、がん組織中の遺伝子の変化を調べ、治療効果との関連を検討することにより、肺がんの患者さんによりよい治療法を提供することができるようになるのではないかと考えています。

この研究では、診断・治療目的にてすでに採取されているがん組織検体から次世代シーケンサーという最新技術を用いて複数の遺伝子異常を同時に解析し、がん組織中の遺伝子異常を検索し、がん組織の遺伝子の違いから、治療効果を予測し、よりよい治療法を探索することを目的としています。

対象となる患者さま：

2015年1月1日～2020年12月31日に、奈良県立医科大学附属病院にて肺癌と診断され、手術を受けられた患者様

研究の方法：

診断・治療目的にてすでに採取されている腫瘍組織検体から次世代シーケンサーによる複数の遺伝子異常を同時に解析します。既に採取した組織検体から調べますので、本研究により新たに検体採取や費用など何かをお願いすることはありません。

研究期間：

研究実施許可後～ 2022年3月31日

個人情報保護に関する配慮：

診療目的で作成されたカルテ上の診療情報、病理診断標本を用いて検討を行い、統計学的に解析を行います。利用する情報から氏名や住所等の患者様を直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者様を特定できる個人情報は利用しません。

なお、今回の解析では、評価対象遺伝子が限定されており、偶発的所見が発生することは考えにくいと思われませんが、治療上有益と推定される遺伝子異常が検出された場合には、主治医を介して患者さまにご説明させていただきます。

問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さまもしくは患者さまの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。この場合も患者さまに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒634-8521 奈良県橿原市四条町 840 番地

奈良県立医科大学 病理診断学講座

武田 麻衣子（研究責任者）

TEL： 0744-22-3051

なお、この研究は本学 医の倫理審査委員会の承認を受け学長の許可を得たものです。